

小さな「議員」10項目提言 子ども県議会



議場で政策を提言する子ども議員たち＝県議会

子どもたちが県に政策を提言する子ども県議会が12月25日、県議会議場で開かれた。昨年7月に「子ども議員」に任命された小学4年から中学3年の40人が、まちづくりや魅力アップのための政策を提言。三日月大造知事らが答弁した。

子ども県議会は、子どもの権利条約が保障する「子どもの意見表明権」をふまえて、子どもたちの社会参加の意識を高めようとする取り組み。昨年8月から12月にかけて、地域の人の話を聞く学習会などを重ね、県の課題について学んできた。

この日は議長も子ども議員が交代で務め、10項目の提言と子ども宣言を採択した。

河野永遠さん（近江八幡市・中2）、長谷川智亮さん（高島市・中2）は、寝具メーカー「西川」の創業者が暮らした近江八幡市にある西川甚五郎邸について「メジャーリーガーの大谷選手が使用するふとんを作る会社です」と紹介。地域の隠れた魅力発見のためQRコードも活用した「歴史跡マップ」づくりを提案した。

片山美玖さん（大津市・小4）と島田彩日美さん（同市・小5）は、不登校対策で「地域の人が聞いてくれる相談室を空き教室につくる」と提案。「気軽に相談できて、不安や悩みを抱えた子どもたちが少なくなる」と願ったと説明した。

ほかにも、湖北にシガレイクコースター（ジェットコースター）や信楽焼カッパ、くらげピッコオオナマスがあるテーマパークを作る（山本雄大さん＝草津市・小5、力石樹練さん＝米原市・小6）▽平日に家族と過ごせるラーケーション（ラーニングとパケーションを組み合わせた遊園）を導入し、父と世界を見たい校外学習をしたい（川口司誠さん＝草津市・小6）などの提案があった。（林利香）